

筑波大学菅平高原実験センター 利用報告書

平成28年10月12日

貴センターを利用して行った実習・セミナーが終了しましたので報告します。

実習名 (セミナー名)	自然環境調査法（福島大学共生システム理工学類環境システムマネジメント専攻の専攻実践科目，2年生以上が対象）					
利用期間	自 平成28年8月22日 ～		至 平成28年8月26日			
	区分	教員	大学院生	学部学生	その他	備考
利用者	人数	1	0	17	1	その他は学術振興会の特別研究員（PD）
うち 受講者	人数		0	15	0	受講生に含まれない学類生の2名はTA
<p>1. 実習・セミナーの内容について、簡潔にお書きください。 中部地方の高原に生育する植物と東北地方の平野部の草地に生育する植物が共通していることを現地での観察を通して学ぶ。 目（order）レベルで昆虫を認識できるようになることを目標に，草原，森林，河川において昆虫を採集し，標本の作製方法，同定方法を学ぶ。 森林土壌中に生息する土壌動物の観察を通して，土壌中の食物網の実際を理解する。 根子岳における植物観察を通して，各種植物の分布，生育環境選好性，フェノロジーの違いを理解する。</p> <p>2. 成果をお書きください。（可能であれば写真なども該当シートに添付してください。） 直前に3つの台風が日本近海にあったことから，風雨により予定していたメニューを消化できない可能性が高いと考えていたが，幸運なことに初日を除いて雨にも降られず，すべてのメニューを消化することができた。参加した学生は植物に興味をもち，開花中のいくつかの種の名前を覚えることができた。昆虫については，目レベルで昆虫を認識できるスキルを身につけることができ，福島に戻った後も視野に入った昆虫を目レベルで認識するようになった。受講生が事後に提出したレポートからは，根子岳における植物の垂直分布調査を通して植物の分布特性や種によるフェノロジーの違いを理解したことが読み取れた。 5日間の実習を通して「現地でじっくりと生物を観察する」，「生物の形態を比較し，違いを認識する」を参加者全員がしっかりと体験し，自然を調べる上での基本を身につけることができた。</p> <p>3. 当センターをご利用いただいた感想、ご要望などご自由にお書きください。 毎年，実習でお世話になっているが，食事，入浴などの準備の心配をせず，実習に専念できること，顕微鏡，ツルグレン装置，乾燥器などを持参しなくても良いこと，採集や観察をするためのフィールドが隣接しているため，野外での活動と室内の作業をほぼ同時に実施できることなど実習を行う上でセンターの環境は最適である。この施設で実習が実施できることを本当にありがたく思っている。 今回は，日程の前半が筑波大学の実習と重なったが，少なくとも私たちの実習に不都合はなく，宿泊棟での生活も含めて快適で充実した実習を実施させて頂くことができた。</p> <p>4. 当センターは、「教育共同利用拠点」としての実習等の利用状況・概要をホームページ等で公開しています。上記1、2、3で非公開を希望される内容がありましたらお知らせください。 非公開を希望する内容は無い。</p>						

担当教員 塘 忠顕

所 属 福島大学共生システム理工学類

職 名 教授

当センターでは、ホームページ等で実習等の成果報告を行っています。
ホームページ上での掲載可能な写真を、コメントと共に頂けませんか？
皆さんの充実した実習等の報告をお待ちしております。

(以下のスペースに自由に写真をはりつけ、コメントをつけてください。)



センター内のススキ草原での昆虫採集(2016年8月23日)



根子岳を登りながらの植物垂直分布調査(2016年8月24日)



根子岳の植物垂直分布調査結果の集計(2016年8月24日)



中ノ沢での水生昆虫採集(2016年8月25日)



採集した昆虫の標本作製とツルグレン装置によって抽出された土壌動物の観察(2016年8月25日)